

会議議事録

事業名	平成27年度 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会
代表校	大阪文化服装学院

会議名	平成27年度第2回 教育課程編成委員会
開催日時	平成28年2月23日(火) 16:00～17:30(1時間30分)
場所	大阪文化服装学院 会議室(E41)
出席者	<p>□ 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中 誠一 (小泉アパレル株式会社 監査役) ・糸井 弘一 (協同組合関西ファッション連合 事務局長) ・志貴 昌弘 (シード株式会社 代表取締役) ・植田 茂和 (株式会社玉屋 常務取締役) ・萩原 直樹 (株式会社アーバンリサーチ 事業支援本部 経営企画室室長) ・新山 浩児 (株式会社アーバンリサーチ ディレクター) ・河野 あゆみ (株式会社エーツー 代表取締役社長) ・江田 真由美 (株式会社エーツー マネージャー) ・中村 裕子 (大阪文化服装学院保護者代表) ・松村 春子 (大阪文化服装学院すみれ会 会長) ・森 慈郎 (大阪文化服装学院 理事長) ・関 義徳 (大阪文化服装学院 校長) ・松下 美恵子 (大阪文化服装学院 副校長) ・大橋 等 (大阪文化服装学院 事務局長) ・杉山 晶 (大阪文化服装学院 学科長) ・榎原 寛 (大阪文化服装学院 学科長) ・播岡 充 (大阪文化服装学院 学科主任) <p>②書記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北橋 美弥 (大阪文化服装学院 教務事務) <p>※ 糸井氏、萩原氏、新山氏、志貴氏、河野氏、江田氏、大橋、播岡は、欠席</p> <p>(参加者合計10名)</p>

<p>議 題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ごあいさつ 2. 平成 27 年度各学科の取組みレビュー 3. 平成 27 年度学生募集、および就職状況等の報告 4. 平成 28 年度職業実践専門課程の申請予定 5. その他報告事項 6. 質疑応答
<p>内 容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ごあいさつ <p>森理事長より、2月6日に行われた卒業発表会の報告。その後、職業実践専門課程に基づく新たな高等教育機関（仮称：専門職大学）の方向性等の説明。もとは「職業教育ナンバーワン」を掲げる大阪府が提唱した「大阪府産学接続コース」が始まりであり、大阪文化服装学院のファッションプロフェッショナル学科（1年制）も認可された経緯がある。平成25年に始まった文部科学省が企業と連携し、職業実践教育を実施している学科を「職業実践専門課程」として認可する制度において、大阪文化服装学院はすべての学科で認可された。現在300校あるファッション専門学校のうち、職業実践専門課程に認定されたのは30校程だが、専門職大学になるには数多くの課題を解決しなくてはならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教員の資格、学位について ② 大学並みの敷地（1人10㎡）、設備等 ③ 単位制（専門学校は時間積み上げ式教育） ④ 社会人教育（eラーニング等） <p>これからは、企業とのつながり、独自性をアピールするとともに、大学・短大並み、あるいはそれ以上の情報公開、そして自己点検・評価、認証評価（分野別質保証を含む）への取組みが必要となる。</p> <p>Q：専門大学と専門学校の違いは？</p> <p>A：補助金の違い。しかし大学・短大設置基準の水準を踏まえつつ、質の高い実践的な職業教育を行う機関として相応しい設置基準を設定しなければならない。これに向けて平成29年3月に新館着工予定で土地を購入しました。</p> 2. 平成 27 年度学科別の取組みレビュー <p>クリエイター系学科の報告</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ファッションクリエイター学科について

1 年生

- ・マイドーム大阪で「手づくりフェア」に参加

2 年生

- ・企業コラボ（サンウェル、アーティスト衣装）の推進

3 年生

- ・企業コラボ（ラ・コロール、玉屋、ハマナカ、島精機）
- ・「DREAM KIDS COLLECTION 2015」に参加

② スーパーデザイナー学科について

2 年生

- ・大阪府のイメージキャラクター「もずやん」プロジェクト

3 年生

- ・イタリア・ポリモーダ校への短期留学

3、4 年生

- ・阪急百貨店「セッセ手芸マルシェ 2015」に、
T□ Shirt and T□ Dress CREATIVE bloom Market !!!
として参加。

4 年生

- ・東京 ROOMS に参加。
- ・コンテストにも多数入賞
(HEP、東京新人、大連、ヤングクリエイター、ファー、装苑等)

ビジネス系学科の報告

① ファッションビジネス学科

1 年生

- ・企業コラボ（サンエーbd との連携講座）
- ・長期インターンシップ

2 年生

- ・企業コラボ（シャレールヤハタのカタログ制作等）
- ・海外（韓国）へのバイイングツアー

② ブランドマネジメント学科

2 年生

- ・長期インターンシップ
- ・ニューヨーク FIT への短期留学
- ・特別講義を多数開催

3 年生

- ・パルとの連携による長期店舗運営

- ・オリジナル商品企画、販売

スタイリスト系学科の報告

①スタイリスト学科

1年生

- ・スタイリスト検定受験
- ・長期インターンシップ

2年生

- ・DREAM KIDS COLLECTION 2015に参加

②スタイリスマスター学科

1年生

- ・10月に行われた秋フェスでスタイリングショー実施

2年生

- ・パーソナルカラー検定受験
- ・長期インターンシップ

3. 平成27年度学生募集、および就職状況等の報告

- ・学科別就職実績の報告(平成28年2月22日時点)

学 科	就職者数	求職者数	在籍者数
SD 学科	7	8	9
C 学 科	28	36	40
BM 学科	12	14	14
B 学 科	39	41	50
ST 学科	17	19	25
STM 学科	3	3	3
合 計	106	113	141

現在、求職者の中で7人が未定。就職率は93.8%。コミュニケーション能力の向上が必須。問題点は在籍者中で求職者が少ない点。

- ・今年度の入学予定者数は300人弱、前年微増で推移。ただ辞退者もある。学科別ではクリエイター系が増加、ビジネス系は苦戦。スタイリストは前年と同じ。

4. 平成28年度職業実践専門課程申請予定

スタイリスマスター学科の設置とファッションビジネス学科

スタイリストコースが新たにスタイリスト学科として独立。平成27年3月に卒業生が出たため、今秋に2学科を申請予定。

5. その他報告事項

・ 第三者評価の報告について

文部科学省委託事業として「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」を文化服装学院、二葉ファッションアカデミー、香蘭ファッションデザイン専門学校と共同で実施。その結果を第三者評価報告書としてまとめた。その評価は、「概ね適正と判断された」。ただ、報告書で指摘があったように、中途退学者への対応が課題である。退学率 10%は平均より高いほか、情報公開の内容について改善を図る。

- ・ パルとの連携による長期店舗運営のカリキュラムに取り組み、教材として「リテイル MD」のテキストを制作する成果を挙げた。
- ・ 教育の質を担保するため、企業と連携した教員研修の受入れ企業の理解と開拓が必須。

6. 質疑応答

Q：企業と連携した教員研修は、大学のハードルを越える為に必要なのですか。

A：文部科学省が短大の施行基準と同等の内容で専門職大学を検討していると聞いている。そうなれば教育の質保証の観点からこれまで以上に高い水準を求められる。

Q：26年度まではスタイリストからビジネスにコース変更する学生が多かった。しかし今年は少ない理由は。

A：27年度からスタイリスト学科として独立したので、1年生から目的意識の高い学生が集まったと判断している。

Q：東京等へ行くインターンシップ代は自費ですか。

A：はい自費です。今年は東京でのインターンシップ希望学生が多く、企業からも2班に分けて欲しいと言われた。ビジネス学科からスタイリスト学科として独立するにあたり、スタイリストのBUN氏がカリキュラムを監修し、学生には遣り甲斐のある授業内容に変わった。

Q：東京でのインターンシップはどんな事を。

A：スタイリスト事務所を中心にインターンシップを実施。服のリースやフィッティングの準備等が主な研修内容。

Q：スタイリストの仕事内容は随分と変わってきたとは・・・

A：モデルやタレントを対象にスタイリングを提案し、それに必要な衣装を調達するというのが基本です。ただ、スタイリングをネット等と連動させてより戦略的に売上増進につなげていこうとするファッションビルや百貨店等が出てきた。一方、消費者を対象に個々にスタイリングを提案するというパーソナルスタイリストの仕事も広がりを見せている。その意味でスタイリストの仕事が変化している。

学生は東京に多い個人スタイリストに付きたいようです。個人のスタイリストと言っても、皆さん事務所に所属されているのですが。スタイリストとして独立するのは、アシスタントとして2□3年頑張ってから、その間は収入も少ないから脱落していく人も多いと聞いています。

Q：スタイリスト学科でアシスタントとして頑張ってみようという学生はどれくらいいますか。

A：全体の20%程度、5□6人くらい。残りは販売の仕事で就職しています。

Q：コンテストに入賞する学生のタイプは変わってきたのでしょうか。

A：ほぼスーパーデザイナー学科の学生です。最近の傾向として手間暇かけた作品が入賞する。その点、スーパーデザイナー学科は、マイブランドから発想を展開し、1年を通してじっくり作品を作り上げる。入賞すると有名デザイナーの意見や評価を聞けるので、それも勉強になっていると思う。

Q：検定試験では、パーソナルカラー検定が注目されている。

A：まず3級から取得し、上を目指すように指導しています。カラーの授業に加え、パーソナルカラーの授業も入れ、より実践に役立つように考えている。

Q：ビジネス系（販売職）の採用は売り手市場。大卒、専門卒

の採用が難しくなったので、高校生の求人活動に力を入れる企業も増えたと聞いています。

A：そのようです。それから、東京採用も多いです。大阪で就職しても1年経たずに東京へ転勤になるケースがあるようです。

Q：東京勤務はリアルな話ですね。我が社（玉屋）も、社長が東京在中になりました。

A：パルもそのようです。大手を中心に関西系企業が東京に拠点を移す傾向が強まっている。

Q：今年の卒業作品発表会はいかがでしたか。

A：適度な時間内に凝縮されていて良かったです。

Q：ビジネス学科プレスライターコースが制作したシャレールヤハタのカタログは良いですね。

A：はい。3千部制作し、顧客に配布されると聞いています。

7. 次回委員会の開催予定

6月下旬に、平成28年度第1回委員会を開催。2回目は11月を予定しております。6月末までに平成27年度自己評価報告書を送りますので、宜しくお願い致します。

以上